

山口がもっと好きになる情報誌



Sight Yamaguchi vol.7 2015

CONTENTS

■特集1

明治維新の策源地、山口。

■特集2

創基200周年を迎える山口大学  
いつの時代も、地元・山口と共に

■特集3

維新を支えた山口の“文化の力”を未来へつなぐ  
地域ブランド「Re:維新」  
大村益次郎の功績を学び、広め、伝え継ぐ

2015年 NHK大河ドラマ

「花燃ゆ」

— 1月4日(日)より放送中 —

舞台は山口県!

CONTENTS

■特集1

- 明治維新の策源地、山口。 p.1
  - ・藩部のシンボル p.2
  - ・いつの世も山口の迎賓館 p.4
  - ・討議を重ねた場 p.6
  - ・維新の志士たちの常宿 p.8
  - ・湯田温泉に残る策源地の面影 p.10
- ・明治維新の策源地、山口 史跡散策マップ p.12
- ・「知っちゃった? 維新トピックス」 p.14

■大河ドラマ「花燃ゆ」情報 p.16

■特集2

- 創基200周年を迎える山口大学 一つの時代も、地元・山口と共に p.19

■特集3

- ・維新を支えた山口の “文化の力”を未来へつなぐ p.22
- ・われらの手で未来を拓く 維新の魂で「山口らしさ」を発信! 地域ブランド「Re:維新」 p.24
- ・山口市鑄銭司出身の偉人 大村益次郎の功績を 学び、広め、伝え継ぐ p.26

■彩都山口\*旬、情報 p.18

- ・ふるさとやまぐち 寄付金のご案内
- ・新山口駅ターミナルパークの 整備について
- ・web版「彩都山口」のご案内

□プレゼントクイズ 編集後記 p.29

「彩都山口」のweb版は、コチラから。  
<http://sight-yamaguchi.jp/>

彩都山口 検索

# 明治維新の 策源地、山口。

2015年のNHK大河ドラマ「花燃ゆ」を機に、幕末から明治維新に至る時代が注目を集めています。近代日本の原点・明治維新は、長州藩なくしては語れません。維新をリードした長州藩といえば、萩や下関、防府が注目されがちですが、実は、多くの志士たちは幕末に長州藩の藩庁があったここ山口で新しい時代を模索し、討議を重ねて、行動に移していきました。時代の変革に挑む志士たちにとって、山口は、戦略をめぐらせ、議論をまとめた作戦基地。いわば、維新の策源地であったのです。

そして、2018年の「明治維新150年」を目前にした現在の山口も、人の力に支えられています。数々の史跡の保存・活用には、この町を愛する地元の人々の情熱が生かされ、伝統に活気をもたらしているのです。まちと人の濃密なつながりを感じながら、明治維新ゆかりの地を訪ね歩いてみましょう。

# 藩都のシンボル 藩庁門

今回の旅の案内役は、地元・山口で毛利愛好会の代表を務めている石川和朋さん。7代目山口県観光フレンズの谷香央理さんと一緒に市内を巡っていただます。一昨年春まで市内の高校の先生だったという石川さんは、毛利一族の足跡を追って全国各地を訪ね歩き、史跡を紹介した著書も出版されています。いかにも地理の先生らしく「現場に足を運ぶことが大事」と、観光客や歴史の初心者に説明する際にも必ず現地を同行し、地元市民ならではの印象的な解説をするよう心がけています。

そんな石川さんが最初に案内してくれたのが、県庁前にある藩庁門です。

長州藩の藩庁は、関ヶ原の戦い以後、藩の北部・日本海沿いの萩にありましたが、幕末の藩主・13代毛利敬親は、文久3年(1863)に、藩中央部に位置する山口に藩庁を移すことを決め、山口御屋形の建設に着手しました。御屋形は藩の政庁であり、敬親の住まいにも予定されていたようです。

「日本海に面した萩は、外国からの攻撃を受けやすいし、藩内を統治するにも山陽側までは目が届きにくい。それで、藩の中央にあって交通の便がよく、要害の地でもある山口への移転を決意したようです」と石川さん。山口と萩は参勤交



代の通り道であった萩往還で結ばれ、山口・中河原には藩主らが滞在する御茶屋も設けられていました。つまり山口は元来、藩主にとってなじみのある地だったので。

そうした経緯を経て山口に藩庁が置かれた名残をとどめているのが、この藩庁門と周囲のお堀です。藩庁の表御門は当初、石門として完成したものの、元治元年(1864)に取り壊され、明治維新後に改めて切妻造り、平入り、本瓦葺きの脇門付薬医門が建造されました。それが現在も残るこの藩庁門です。堂々たる構えが藩庁の権威を今に伝え、山口県の文化財に指定されています。

「建材の松とケヤキは、長州藩江戸屋敷に使われていたものを解体して馬車で運んで使ったといわれています」

江戸から長州へ、長旅を経た建材はここで藩庁の正門となり、更に150年という時空の旅を経て、現在もこの地に立っているわけです。

今もお堀が残る山口御屋形の跡地には、大正5年(1915)に旧県庁舎本館が建てられました。現在は山口県政資料館となったこの建物は、西洋建築と和風建築を見事に融合させた大正建築の傑作として国の重要文化財に指定されています。

藩庁から県庁へ、歴史の変遷を重ねてここ山口も維新150年を迎えようとしています。



# 市街を見下ろす藩主像

## 亀山公園

藩庁移鎮、という大きな決断をした藩主・毛利敬親は、「そうせい公」とも呼ばれていたとか。

「家臣の進言に『そうせい』とOKを出す殿様...という意味で、ならば頼りないのか...と誤解されそうですが、実は器の大きい、人材登用に優れた名君だったのは明らか。敬親あればこそ、山口は維新の策源地になり得たのです」と石川さんは熱く語ります。ならば、その名君のお姿をぜひ確認したい...と、県庁から伸びる美しい道パークロードを南下し、亀山公園にやってきました。

小高い丘の上に広がるこの公園からは市内が一望でき、すぐ隣には山口サビエル記念聖堂もあって、市民の憩いの場として親しまれています。

園内に立つ毛利敬親像は、馬上姿。スラリとしたイケメン殿様...かどうかは...訪れてみてご確認ください。

「戦前はこの園内に、敬親の次代・元徳(もとのり)や長府 徳山、岩国、清末の各藩主の銅像もあり、銅像公園とも呼ばれていましたが、戦時中の金属回収で銅像が供出されたのです」と石川さん。現在の敬親像は、昭和55年



中河原のお茶屋近くにあったお茶屋橋の欄干。敬親や志士らが渡った橋の名残を今にとどめる。



亀山公園から市街地を望む。高台となっているため、園内には市内を見下ろすビュースポットがいくつかあり、藩庁門のある山口県庁から香山麓所、瑠璃光寺五重塔方面を見渡せるスポットもある。

(1980)に山口市制施行50周年記念として建立されたものです。

さらに園の一面には、古い橋の欄干があり、石川さんは

「藩庁を山口に移した後、御屋形が完成するまで敬親が政務を執った中河原のお茶屋近くにあった橋の欄干を移築したものです」とすかさず説明。現在のお茶屋橋付近には、クリエイティブ・スペース赤れんがが建ち、文化芸術の発表・交流の場として地元で親しまれています。また、橋の架かる一の坂川は、春は桜の名所、初夏は国の天然記念物ゲンジボタルの群生地として知られ、多くの観光客で賑わいます。



石川 和朋  
昭和22年(1947)山口市生まれ。毛利愛好会代表。平成25年3月まで市内の高校教諭(担当科目は地理)。毛利氏に興味を抱き、全国各地を回って毛利氏ゆかりの史跡や石碑・墓などを調査・撮影。その成果をまとめた著書に『毛利元徳』がらり見歩き『そうせい公 毛利敬親』がらり見歩き、『写真集』松陰と相取などがあ。



たかあり 谷香央理  
おいでませ山口観光キャンペーン推進協議会の7代目山口県観光フレンズを務める。一期一会のおもてなしの心をモットーに山口県の観光をPR。



四季折々に楽しめる亀山公園には「そうせい公」敬親の銅像が訪れる人々を見下ろすように立つ。敬親の姿は天保14年(1843)の羽賀台闘兵の際のもの、当時24歳。

### 山口市にゆかりのある維新の志士

**周布政之助(1823～1864)**  
幕末の長州藩の指導者。高杉晋作、久坂玄瑞、木戸孝允らを登用し、長州ファイブを英国に送り出した。井上馨が襲撃された翌日、藩内紛争の責任を取って山口・矢原の吉富邸で自害。

**大村益次郎(1824～1869)**  
山口・鏡鏡司村の医家に生まれ、文久3年(1863)から普門寺で兵学を教えた後、明倫館教授となって士官養成と藩・軍政面の指導に尽力した。日本陸軍の事実上の創始者。

**木戸孝允(桂小五郎)(1833～1877)**  
山口などで討議を重ね、薩長同盟を結んで倒幕運動を指揮。西郷隆盛、大久保利通と共に「維新三傑」と呼ばれる。維新後は版籍奉還や廃藩置県を成功させた。

**井上馨(井上聞太・井上聞多)(1835～1915)**  
山口・瀬田村の生まれ。長州ファイブの一人として英国に渡る。元治元年(1864)に山口・袖解橋付近で反対派の襲撃を受け、重傷を負う。維新後は外相など政府の要職を歴任。

**山尾庸三(1837～1917)**  
山口・秋穂二島村の生まれ。木戸孝允に認められて国事に参加。長州ファイブの一人として英国で工業工学を学び、帰国後は工学関係の要職を歴任。豊唾者教育施設も創設した。

**高杉晋作(1839～1867)**  
松下村塾出身。初代奇兵隊総督。藩庁移鎮後は時おり山口に滞在した。元治元年(1864)に下関の功山寺で拳兵。藩議を覆し、倒幕にまどめる。維新前に病没。

**久坂玄瑞(1840～1864)**  
松下村塾で高杉晋作と双璧といわれた俊才。妻は吉田松陰の妹・文。尊王攘夷運動を牽引し、高杉らと英国公使館を焼き討ちした。元治元年(1864)の禁門の変で自刃。

**伊藤博文(1841～1909)**  
松下村塾出身。文久2年(1862)英国公使館の焼き討ちに参加。長州ファイブの一人として渡英の翌年、井上馨らと急遽帰国し四国連合艦隊との講和に尽力。初代内閣総理大臣。

**井上勝(1843～1910)**  
文久3年(1863)英国に渡った長州ファイブの一人。ロンドン大学で土木工学を学び、明治政府では鉄道局長官などを歴任し、鉄道開通に尽力。「鉄道の父」と呼ばれる。

**山田顕義(1844～1892)**  
松下村塾で学び、第二次長州征伐や戊辰戦争で活躍。大村益次郎の没後、近代兵制の整備を進めた。明治4年(1871)に岩倉使節団に参加し欧米を視察。初代司法大臣。日本大学の創始者。



山口市菜香亭  
山口市花1-2-7  
083-934-3312  
観覧時間/9時～17時  
休館日  
火曜日、12月29日～1月3日  
観覧料/高校生以上100円  
小・中学生50円

モデルの谷さん  
着用の着物も  
このサービスを  
利用しています!!

着物レンタル・  
着付けサービスで  
町歩きを  
手ぶらで来て大丈夫!!  
好みの着物を選んで楽しめます!

山口市菜香亭では、山口の街並みを着物で歩く  
うさぎの会員さんによる着物の貸出・着付けサ  
ービスを実施しています。着物や履物など一式レ  
ンタルできるので、手ぶらで来て風情ある観光  
スポットを着物姿で巡ることが出来ます。

●料金：2時間未満2,570円、  
2時間以上3,600円(要予約)

## いつの世も山口の迎賓館 山口市菜香亭

幕末、山口に藩庁を移した長州藩は、多くの志士を輩出し、明治維新をリードしました。初代内閣総理大臣・伊藤博文をはじめ多くの有力政治家を中央政界に送り出した長州は、いわば日本近代化の母胎であったともいえるでしょう。

その面影を今に伝えるのが、山口市菜香亭。藩庁が山口に移った際、一緒に山口に移り住んだ齊藤幸兵衛が、明治10年(1877)頃、八坂神社境内に創業した料亭です。菜香亭の名は、長州ファイブの一人井上馨が命名したと。以来、山口県出身の歴代総理大臣や各界の著名人が来訪し、山口の迎賓館的な役割を果たしました。

「山口の華やかな歴史舞台だったわけですが、昭和29年(1954)からは公民館結婚式にも使われ、約半世紀に通算3142組が挙式しま



した。私ももそのうちの二組なんです」と石川さん。菜香亭が市民にとっても身近な存在であったことが伝わってきます。

平成8年に料亭がのれんをおろした後は、さまざまな市民文化活動の場として利用される一方、菜香亭保存の市民運動がわき起こりました。市民の熱い願いは5000人以上の署名となって行政を動かし、平成12年に、豊栄・野田神社にほど近い現在地への移築が決まったのです。



●維新関連企画展のご案内●  
企画展「没後100年 間多復活」  
会期/平成27年2月5日(木)～4月5日(日)  
※観覧料は、施設入場料に含まれます。  
4月以降も維新関連のさまざまな企画展を開催予定です。  
詳しくは、ホームページでご確認ください。

## 藩主・毛利氏を祀る 野田神社・豊栄神社

菜香亭に続いて石川さんが案内してくれたのは、すぐそばの野田神社です。「明治4年(1871)に亡くなった毛利敬親は、跡を継いだ元徳と共に、この神社に祀られているのです」

また野田神社の東隣には、毛利中興の祖である毛利元就を祀った豊栄神社があります。

元就を祀る神社は元来、秋城西側にありましたが、明治4年(1871)に現在の地に遷座されました。「豊栄」の神号は朝廷より賜ったといわれています。

「敬親も没後数年間は豊栄神社の別殿に祀られ、それが野田神社と称されていきましたが、明治19年(1886)に現在の社となりました。野田神社が豊栄神社より一回り小さいのは、偉大なる祖先・元就に遠慮してのことでしょう」と、人間味あふれる解説が続きます。さらに境内には昭和11年(1936)に建てられた能楽堂もあり、

「この能楽堂は敬親の孫・元昭(もとあきら)が明治維新70年を記念して建築・奉納しました。毎年8月にはここで新能が催されています」と石川さん。史跡を単に保存するだけでなく、身近なものとして有効活用する山口市民の姿勢が、ここにも現れているようです。

拠点として、また市民交流の場としても活用されています。今回の谷さんのように、ここで着物レンタル・着付けをして市内観光スポットを巡る...といった活用法も観光客に人気です。

山口市菜香亭は、山口の歴史や伝統文化を愛し、継承していかうという市民の熱意によって残され、受け継がれいく史跡といえるでしょう。

「この地には、敬親が住まいにしようとして建てた野田御殿、つまり毛利邸がありました。敬親は明治2年(1869)に元徳に家督を継がせ、2年後に53歳で亡くなりました。隠居気分を味わうには短かすぎる晩年だったかもしれませんが、敷地内には平成3年頃まで、野田御殿の古い蔵が残っていたんです」と、風情ある中庭を眺めながら穏やかに語る石川さん。

館内には、伊藤博文が歴代総理大臣や賓客たちが揮毫した数々の額が展示された大広間、「佐藤栄作の間」と呼ばれている北客間など、見どころがいっぱい。長州藩、そして山口県が明治維新以来、長きに渡って日本のリーダーを輩出してきたことが伝わってきます。さらに「ここを拠点に明治維新の策源地・山口の観光に出かけていただきたい」という歓迎の心も随所に漂っています。菜香亭は今も、この地を訪れた観光客を温かく迎え入れ、もてなす、山口の開かれた迎賓館なのです。



## 討議を重ねた場 枕流亭・露山堂

藩庁門と山口市菜香亭の中間地点、山に抱かれるように広がる香山公園には、国宝・瑠璃光寺五重塔もあり、一帯は山口市観光のメインゾーンです。さらに園内には、維新に向けての討議の場として活用された建物も移築され、残されています。

瑠璃光寺五重塔を美しく望む場所に立つ枕流亭は、幕末に薩長の志士たちが集まり、幕府を倒す計画を練った建物です。

元来は道場門前の安部家一族の離れでしたが、昭和35年(1960)にここに移築されました。安部家は豪商で脇本陣でしたと石川さん。館内へは自由に出入りでき、一階には、ここで慶応3年(1867年)に薩摩藩の西郷隆盛、小松帯刀と長州の木戸孝允らが薩長連合の密約を交わしたことを説明するパネルが展示されています。維新の志士たちも使ったであろう階段をゆっくりと上れば、150年という歳月を越え、心はタイムスリップしてしまいます。

枕流亭のそばには、露山堂があります。毛利敬親が藩の政庁・居館とした山口御屋形の敷地内、一露山の麓に建立した茶室です。その小山の名にちなんで命名され、明治24年(1891)に現在地に移築されました。

「敬親は重臣たちとここで茶事にことよせて倒幕の計画を練ったのです」

慌ただしく藩庁が移された当時の山口にあって、露山堂はいわば藩主の会議室のような役割を果たしていたようです。



敬親が茶事にことよせて家臣らと策を練った茶室・露山堂。月1〜2回程度、山口市内の茶道各流派の茶会が開催されている。



安部家の離れを移築した枕流亭は、豪商の住居の造りを今に伝える。



風情ある建物・枕流亭の内部は解説コーナーとして整備され、志士たちのパネルが並んでいる。入場自由(無料)。

## 敬親夫妻が眠る場所 香山墓所

香山公園の中を枕流亭、露山堂からさらに奥へ進むと、毛利敬親夫妻が眠る香山墓所があります。その途中に立つ勅撰銅碑は、明治29年(1896)に明治天皇が敬親の偉業を顕彰するため建立されました。豊栄神社での石川さんの説明を裏付けるものです。

墓所への参道はうぐいす張りの石畳。足音や拍手にも心地よい反響が聞かれ、静寂な参道に笑顔が交差します。

墓所には、敬親夫妻とその養子元徳夫妻、孫の元昭夫妻の墓、さらに毛利本家歴代諸霊の墓などがあります。

石川さんは「敬親には妻子がなく、徳山毛利から養子に迎えた元徳が跡を継いで14代の藩主となりました」と感慨深げに語ります。

そして、香山墓所に隣接する洞春寺には、井上馨の分骨墓があります。山口湯田で生まれた井上馨は、高杉晋作らと共に幕末の志士として活躍、長州ファイブの一人として英国にも渡りました。さらに維新後には外務大臣などの要職を歴任し、日本鉄道や日本郵船会社の設立にも尽力しました。大正4年(1915)に静岡興興津の別荘で亡くなりましたが、後にこの洞春寺に分霊が祀られたのです。



### 山口市観光ボランティアガイドの会

香山公園には観光ボランティアガイドの会員が常駐し、観光客の皆さんに無料の観光ガイドサービスを行っています。入り口付近に待機されているグリーンジャンパーを着たガイドさんに気軽に声をかけください。

- 山口市観光ボランティアガイドの会 事務局
- 083-928-2000
- 案内時期/3〜11月[土日祝日]、12〜2月[日祝日]
- ※12/24〜1/7は休み
- 時間/土・日・祝日 9時〜16時
- ※夏季(6〜8月)は17時まで
- ガイド料/無料





# 維新の志士たちの常宿

## 十朋亭

文久3年(1863)、藩庁が山口に移されると、多くの役人たちが萩から山口に移ることになり、藩は急ぎ、役人たちの宿泊所を山口の民家の中から選び出しました。その中の一つが、醤油業で栄えていた萬代家でした。壺小路にある十朋亭は、萬代家の離れ座敷として江戸時代後期に建築され、現在もほぼ当時のたぐいまいのまま残り、山口市の史跡に指定されています。



山口市下壺小路112-1  
 ■ 開館時間/10時~17時 ■ 休館日/火曜日 ■ 入館無料  
 ※見学ガイドを希望する場合は「大路口ビー」(☎083-920-9220)へ。

「最初の宿泊人は、藩の重役・周布政之助だったと伝えられています」  
 と石川さん。以後、桂小五郎(木戸孝允)、高杉晋作、久坂玄瑞ら維新の志士たちもここに出入りし、利用しました。特に長州ファイブとして渡英中であつた伊藤博文、井上馨が元治元年(1864)に急ぎよ帰国した際には、この十朋亭に落ち着き、帰藩届けを出した...と伝えられるほどの縁の深さです。

当時の萬代家当主・利兵衛輔徳は商才にたけ、藩の軍資金集めにも尽力し、さらに十朋亭で起居する若い武士たちの面倒もよくみていたとか。  
 「いつの世も、新たな挑戦をする活動家の陰には、物心両面での支援者の存在がある...というところでしょね」と石川さん。この十朋亭は、明治維新の策源地・山口の中でも特に重要な、そして時には温かい存在でもあったといえそうです。



そして現在、この十朋亭が見学できるのも、山口市民による保存活動あってこそ...なのです。十朋亭の一般公開は、昭和末期に一時中断していましたが、平成8年にスタートした市民による手作りイベント「アートふる山口」に参加して以来、年1回公開されることになりました。以後、平成10年に発足した「菜香亭・十朋亭」



「菜香亭もそうですし、この十朋亭も市民の手で甦らせた史跡なのです」  
 と、石川さんもちょっと誇らしげです。  
 そうした機運は現在まで脈々と受け継がれ、さらに未来に向けて新たな展開も計画されています。その一つが、2015年1月から公開の「杉私塾」。吉田松陰の兄・杉民治が私塾を開いたと伝えられている十朋亭隣の建物が公開されています。また、萬代家の母屋や蔵なども2018年の「維新150年」に向け、維新の歴史を感じさせる展示スペースや休憩所として整備されていきます。



### やまぐち 維新さんぽ

「久坂deカフェ」で  
 ホッとひと息

十朋亭に残されていた久坂玄瑞常用の湯呑。一の坂川エリアのカフェ等では、その湯呑を再現した「久坂常用湯呑レプリカ」でお店のおすすめメニューをお楽しみいただけることになりました。幕末維新ヒストリーに思いを馳せながらのほっこりひととき、オススメです。



十朋亭で久坂玄瑞が使用していた湯呑。現在は山口市に寄贈されています。

※参加カフェは、大路口ビーのホームページでチェック!!  
 大路口ビー 検索

「維新の本箱」  
 維新関連の  
 書籍コーナー、あります!!

文庫本や古書など幕末維新に関連した書籍を40冊程度揃えた「維新関連書籍コーナー」を大路口ビー内に常設します。史跡巡りの前後にお立ち寄りいただければ、往時の雰囲気味わえ、歴史散策がより一層楽しめること間違いなしです。

大路口ビー内  
 常設



### 山口幕末維新年表

西暦	元号/年月	出来事
1862	文久2	毛利敬親、山口の地を踏査させる
1863	文久3	高杉晋作ら、江戸の英国公使館を襲撃 敬親、萩を出て山口御茶屋へ入る 下関で攘夷戦始まる
1864	元治1	井上馨ら長州ファイブ、英国に渡航 山口の中河原の御屋敷内に山口政事堂を開設 下関が米、仏の軍艦による報復攻撃を受ける 高杉晋作が藩命により奇兵隊を創設 敬親、山口移鎮の告諭 8月18日の政変
1865	元治2	三条実美ら七脚が長州藩へ(七脚落ち) 萩政事堂を廃止し、山口政事堂のみとする 山口新屋敷の建築起工。10月落成
1866	慶応2	池田屋事件 井上馨と伊藤博文が急遽英国より帰国し、十朋亭に起居
1867	慶応3	井上馨の(給御門の)恋。久坂玄瑞、自刃 第一次長州征伐の勅命下る
1868	明治1	英・米・蘭・仏の四国連合が下関を砲撃 井上馨、山口政事堂からの帰り道に襲撃される。 俗論派の台頭。周布政之助自刃
1869	明治2	敬親、萩城に帰る 幕府の使者、山口城の破却を確認 高杉晋作、功山寺挙兵
1870	明治3	敬親、藩是を一変。3月、武備禁限を決定 薩長同盟締結
1871	明治4	敬親、藩是を一変。3月、武備禁限を決定 薩長同盟締結 第二次長州征伐(四境戦争)開戦 9月、撤兵協議が成立。長州藩が勝利 敬親、山口を永く本藩の根拠地とすると告諭 高杉晋作死去 毛利敬親父子に倒幕の密勅下る 王政復古の大王令 江戸城開城 版籍奉還
1872	明治5	毛利敬親、家督を元徳に譲り、隠居 元徳、藩知事となる
1873	明治6	山口藩知事の居館の名称を「山口藩議事館」に改称
1874	明治7	大村益次郎、刺客に襲われる。11月死去 山口藩議事館を「山口藩庁」と改称
1875	明治8	敬親、山口藩庁内で病死 香山墓所に葬られる
1876	明治9	鹿瀬置屋、山口藩庁を「山口県庁」と改称

この春、一の坂川周辺の散策に新たなコンテンツが登場!!  
 やまぐちオリジナルのひと味があった  
 維新さんぽ、楽しみませんか?

「維新deコスプレ」で  
 やまぐち巡り

久坂玄瑞(大人版・子ども版)と高杉晋作(大人版)をイメージしたコスプレ衣装をご用意。衣装をまとって、維新の志士気分、山口散策。十朋亭などで、旅の思い出になるとっておきの一枚を撮ってみませんか?  
 ● 料金/30分まで2000円  
 30分以上~2時間5000円  
 ● 大路口ビー ☎083-920-9220  
 ● 開館・営業時間/10時~17時  
 ● 定休日/火曜・お盆・年末年始  
 ※数に限りがありますので、ご注意ください。

大路口ビー



「やまぐち維新さんぽ」  
 オープニングイベント開催!

モデルによる「維新deコスプレ」衣装のお披露目、幕末に久坂の湯呑を製作された方の子孫、河崎尚志さんを招いてのトークショーなどを開催予定です。

● 平成27年2月21日(土)10時~12時  
 ● 会場/大路口ビー & 旧萬代家離れ

大路口ビー



井上公園には、ここに生家のあった井上馨の銅像が立ち、側には所部太郎顕彰碑があります。八月十八日の政変で京都から落ち延び、山口で開業していた医師・所部太郎は、井上馨が元治元年(1864)に袖解橋付近で反対勢力に襲われ重傷を負った際に豊針で手当して命を救いました。

その歴史は、長らく何遠亭跡の碑が伝えて来ましたが、2015年には、公園の一面に何遠亭が再現されます。再現後には、維新の策源地・山口において、温泉地として栄えてきた湯田温泉の存在意義が、よりはっきりと感じ取れることでしょう。

もちろん温泉街の中心部にも、維新の志士たちが滞在した名残は残っています。特に当地随一の老舗旅館には、三条実美らがしばしば逗留したと、西郷隆盛と木戸孝允らが薩長同盟締結に向けて討議を行ったとも伝えられています。また、その裏手にあった宿・瓦屋にも志士たちが宿泊したといわれ、現在は瓦屋跡の石碑がその歴史を伝えています。



何遠亭(井上公園内)※2015年6月頃オープン  
明治維新ゆかりの施設として、当時実際に建てられていたとされる井上公園内の一角に再現。山口市産の木材を用いた木造平屋造りで、六畳二間と縁側などが設けられる予定。

## 策源地の心意気を胸に、 「明治維新150年」へ！

明治維新策源地の地としての横顔を巡る旅、いかがでしたか？ 13代藩主毛利敬親によって藩庁が置かれた山口には、志士たちの足跡が点在し、訪ね歩けば、時代を拓いていくこととした彼らの息づかいが伝わって来るようです。歴史は、未来を生きるヒントを与えてくれるもの。

「その場に足を運び、当時に思いを馳せることに意味を感じます。」

という石川さんの言葉どおり、歩いて、見て、展望を探れば、このまちが私たち自身の未来への策源地の地にもなり得るでしょう。そして、2018年に迎える、明治維新150年、もう身近に感じられるはずですよ。



# 湯田温泉に残る 策源地の面影 井上公園・「七卿の碑」

藩庁門から約3キロメートル西に位置する湯田温泉は、山陽路きつての名湯。維新策源地の史跡は、この温泉地にも残されています。湯田温泉の起源は500年以上前といわれ、秋往還による交通の便も幸いして、歴代藩主が萩からよく入湯に訪れたと伝えられています。現在の温泉街中心部には、湯田御茶屋と称す別邸も設けられていました。

敬親が文久3年(1863)に藩庁を山口に移すと決意し、4月16日に山口入りした際も、表向きの理由は「湯田温泉への日帰り湯治」としていたそうです。

そして湯田は、井上馨の出身地でもありません。旧宅のあった場所は公園となり、大正時代に開園した当時は井上公園と呼ばれていました。昭和初期に地名から高田公園と改称。その後平成24年に再び井上公園の名に戻されました。これは、井上馨の功績を称え、地元活性化につなげていこうという湯田温泉まちづくり協議会などの声が反映されたもの。ここにも、歴史を尊重し、その継承に力を惜しまない山口市民の気風が息づいています。

井上公園には温泉地の公園らしい足湯も設けられていますが、目を引くのは野村素介の書

## 井上公園からひと足のぼして

### 周布政之助の碑

藩の重臣であった周布政之助は元治元年(1864)に藩政の主導権を保守派の俗論党に奪われた責任を取って、軟禁されていた吉富庵一宅の畑で自刃しました。その場所近くに立つ碑は、彼の功績をたたえて昭和初期に建立されたものです。井上公園から徒歩約7分。



### 木戸神社

「維新三傑」の一人木戸孝允は、亡くなる前、邸宅と山林を子弟の学費とするよう地元・糸米に寄付しました。その厚意に感謝して住民が建立・神靈を祀った神社です。井上公園から車で約10分。



による七卿の碑です。文久3年(1863)に起きた八月十八日の政変で失脚した三条実美ら7人の公家が長州に落ち延びうち6人が湯田温泉に到着した「七卿落ち」から60周年を記念して建てられた石碑です。七卿とは、三条実美、三条西季知、壬生基修、四条隆詞、東久世通禧、錦小路頼徳、沢宣嘉の七人。

「三条の宿舎として井上邸を借り上げ、修理増改築し、増築部分が何遠亭と名づけられました。論語の「何の遠きことか之有らん」から命名したのです」と石川さん。地元の人々はこの何遠亭を含む井上邸を、公家(三条実美)が住んだことにちなんで高田御殿と呼んだとい



## 湯田温泉観光回遊拠点施設 「狐の足あと」

湯田温泉に来たら  
まずここへ！

2015年  
3月22日  
オープン

湯田温泉の観光スポットをはじめ、食べ歩きや山口土産の情報検索と収集ができるほか、屋内でゆったり寛げる足湯、人気の地酒や外部などが味わえるカフェもあり。さらに、山口が舞台の大河ドラマ「花燃ゆ」放映に合わせ、衣装やパネルなどを展示した企画展も開催。グルメでディープな観光を楽しみたい人にオススメのニュースポットです。



〒山口市湯田温泉 2-1-3  
☎083-921-8818  
■営業時間/8時~22時  
■年中無休  
■入館無料(足湯のみ有料200円)  
URL <http://www.yuda-onsen.jp/>  
湯田 狐の足あと 検索



# 明治維新の策源地、山口 史跡散策マップ



昔の道

今の道

**普門寺**  
藩命により江戸より呼び戻された大村益次郎は、山口明倫館の改組にあたって山口では普門寺境内にある観音堂を宿舎としました。後に益次郎は学生たちに求められて兵学を教授し、普門寺塾と呼ばれていました。

**湯田御茶屋跡**  
長州藩の公館として設けられた湯田御茶屋には、藩主はじめ毛利家の人々が保養のためよく訪れていた。このため、幕末に藩庁を萩から山口に移すことを企んだ毛利敬親は、表向きには「日帰りの湯治に行く」と称して萩を出立。実際は中河原にある山口御茶屋に政事堂を設けて政務を執り、やがて藩庁の移鎮を成功させたのです。

**井上馨侯遭難の碑**  
井上馨は、元治元年(1864)、ここ袖解橋付近で数名の反対勢力に襲われ瀕死の重傷を負います。医者所部太郎によって一命をとりとめました。

**井上馨の墓(洞春寺)**  
長州ファイブの1人井上馨は維新後、外務大臣や内務大臣などを歴任。大正4年に亡くなり東京の長谷寺に葬られましたが、その分骨を祀った墓が洞春寺の墓地にも建てられました。

**萩往還**  
毛利氏の城のある日本海側の萩から瀬戸内海側の防府市の三田尻まで全長約53km。萩から江戸への参勤交代の「御成道」として整備されました。幕末には維新の志士たちもこの道を往来しました。石畳の道や一里塚、国境の碑など往時の面影を残す歴史街道として整備が進められ、ガイド付のウォーキングツアーなども実施されています。

**錦の御旗製作所跡**  
幕末にはこの地に藩の養蚕所があり、鳥羽伏見の戦いで官軍の陣頭に立てられた錦の御旗を製作したといわれています。現在は、その跡地に石碑が建てられています。

**山口御茶屋跡**  
藩主の参勤交代や幕府役人などの宿泊のために設けられていた公館で、毛利敬親は、山口に藩庁を移す際に新屋形が完成するまではここに政事堂を置き、政務を執り行っていました。当時の橋の欄干は、現在は亀山公園内に移築されています。

**山口講堂跡(山口大学創基の地)**  
文化12年(1815)、上田鳳陽により山口大学の基となる「山口講堂」が開かれた場所がここ中河原の地。山口大学創基の地とされています。

井上公園	←	藩庁門	←	香山墓所	←	枕流亭・露山堂	←	野田神社・豊栄神社	←	山口市茶香亭	←	十明亭	←	亀山公園	←	藩庁門
バス 約15分 (湯田温泉～県庁前)		徒歩 約10分		徒歩 約15分		徒歩 約10分		徒歩 約10分		徒歩 約10分		徒歩 約20分		徒歩 約10分		

参考資料/皇政復古七十年記念山口史跡図(昭和11年12月9日発行・山口市役所発行「皇政復古七十年記念山口史跡概観」より)



幕末に毛利敬親が藩庁を萩から山口に移し、以来、山口は維新策源の本拠として、さまざまな役割を果たしていった...という事実を追っていくうちに「藩庁はどんな建物だったの?」という素朴な疑問がわいてきました。多くの史料には「宇野野令海村に山口御屋形が建てられた(現山口県庁の所在地)」と記されており、その御屋形は藩主の住まいであると同時に、政務を執る政庁としても使われた...と推測されていますが...

「実は、山口移鎮に際して長州藩は、八稜城という形式の城を建てたんです」と解説されるのは、郷土史研究家の桑原邦彦さんです。八稜城とは西洋式の稜堡式城郭(※注1)の代名詞で、つまり山口城は、天守閣や櫓のある「和風のお城」ではなく、大砲を主兵器とした洋式城郭であったということです。「城の前面には堀を設け、洋式土塁と砲台を配置していたのが特徴とか。」「山口城にさえなじみがないのに、それが西洋式城郭だったなんて、新鮮な驚きを感じます。」

その山口城は元治元年(1864)10月に完成したものの、第一次長州征伐により、11月には征長総督府から破却を命じられたといま。藩主・敬親が住むこともなく、城としての機能もほとんど果たさず、山口城は瞬く間に壊されることになったというわけです。再建の工事は、藩の方針を武備恭順(※注2)に転換した後の慶応元年(1865)4月から始められました。

郷土史に加え考古学も研究されている桑原さんは「現地に赴き、自分の目で確かめるのが一番」と、山口城の跡地、つまり現在の県庁一帯を歩きながら説明してくださいました。

旧知事公舎そばと藩庁門の両側の2カ所には、城の土塁の名残が見られると。あちこちの石垣には築城当時と以後の造りが混在していること。堀が前面の各稜堡をめぐる造りになっていること。そして、藩庁の表御門(御本門)は樹形土塁の北側の壁に設けられ、築城の際には石門として完成したものの、元治元年(1864)に他の施設と共に壊されたこと。

明治3年(1870)、本瓦葺きの脇門付薬医門として改めて建造された門が、現在に至るまで藩庁門という名称で呼ばれていること...など、解説を聞きながら一つひとつ確認して歩けば、山口城の姿が目に見えはる。そして、幕末の山口に、政治・軍事両面で新たな拠点を築くこととした敬親の想いまでも伝わって来ます。

史実との対話は、ここから始まるのかもしれない。なぜ、そんなことが?と次々にわき起こる疑問への答えを、市内各所で開催される郷土史セミナー等で探ってみるのも良いでしょう。

明治維新策源地の地・山口で、歴女・歴男( )の仲間入りをしてみませんか?

知っちゃった?  
維新トピックス

幕末、藩庁が移された山口には

「山口城」

が築かれました。

しかも、それは...

西洋式城郭

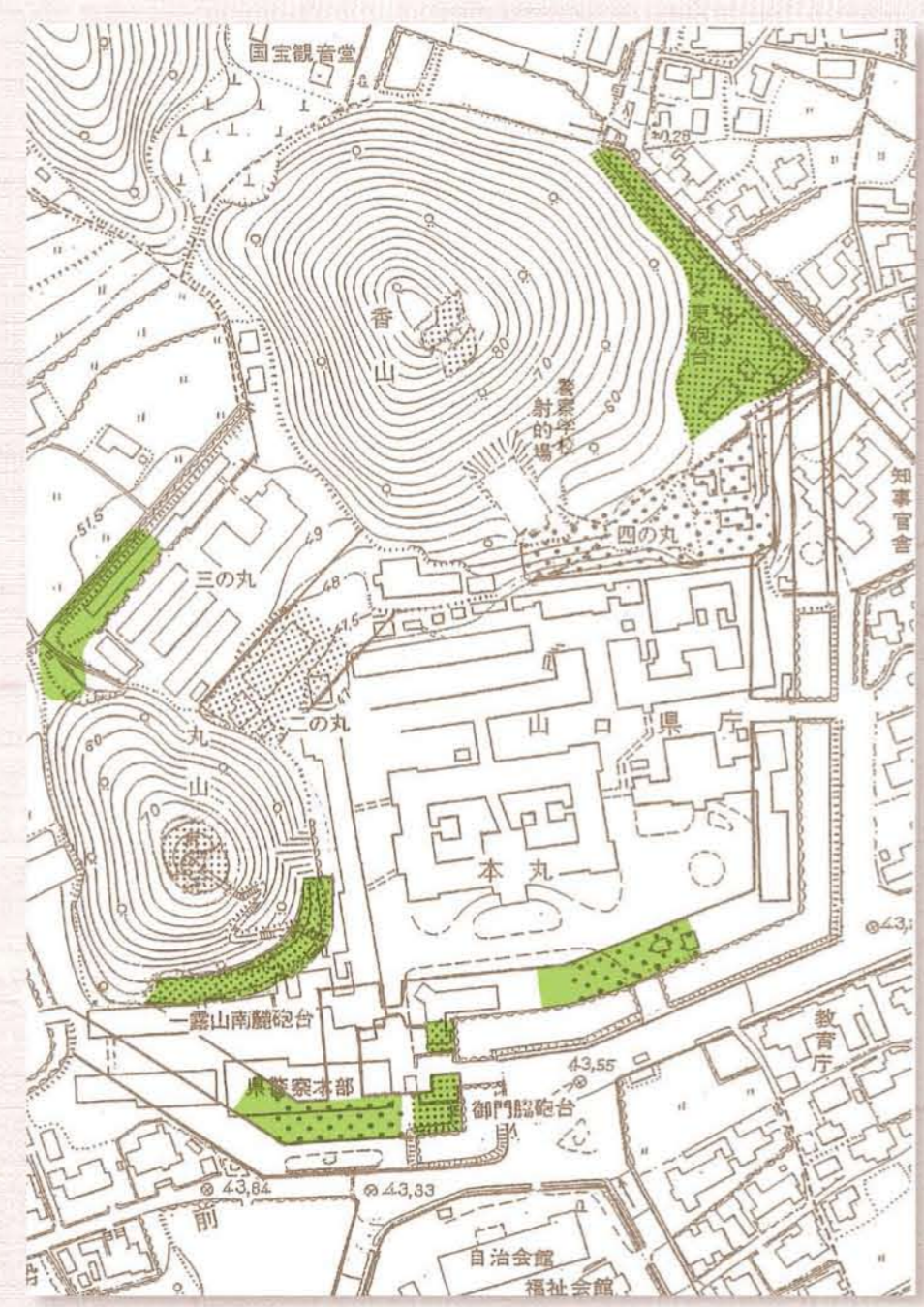
だったのです!

西洋式の城郭?国内で有名なのは、北海道の五稜郭。あの形を思い浮かべてみると、日本の城とは形が違うの分かるかな?!

現在の藩庁門はココ!山口城が築かれた時の表御門とは異なる位置にある。明治になって造られたもので、山口藩の権威を示す象徴的な建造物となっている。破却された表御門は、戦いに備えた実戦的な門となっていた。



山口御屋形形図(敷地平面図)/山口県文書館蔵  
山口城内郭の敷地平面図と本丸内に建造予定の屋形(御殿・政庁)の建屋平面図



桑原さんの考える山口城における砲台等の配置図(昭和27年測図、38年修正 1/3000 山口市都市計画図を使用)



山口城東砲台前面の石垣と土塁の遺構  
豊沙門山(香山)の東南麓から洞春寺の山門脇まで香山通りに面して築かれた砲台の遺構

2つの図を見比べると、今の県庁のどのあたりかが分かって、おもしろいわね!



(※注1) 稜堡式城郭=中世ヨーロッパで発展した築城方式。国内では星形の北海道五稜郭がよく知られている。敵からの火砲による攻撃を避けると共に、敵に対しては多方向から攻撃できる設計。城壁は砲弾に砕け散らないように土を含む材料を用いて、低く分厚く築かれた。  
(※注2) 武備恭順=対外的には幕府に従う態度をとり、藩内では洋式の軍制と兵器の近代化を推し進めて有事に対応していく戦略。

●桑原 邦彦(くわはらくにひこ)  
山口生まれ。広島大学教育学部(国史専攻)卒。高校教諭を経て、現在は郷土史・考古学の専門家として研究活動を行っている。専門誌への論文寄稿や著書多数。  
●参考文献  
\*桑原邦彦 著  
「文久の山口移鎮と山口城に関する諸問題」(『山口県地方史研究』第91号)  
\*桑原邦彦 著  
「山口御屋形(山口城)の築造年代と縄張り」(『山口県地方史研究』第105号)  
※図版は桑原さんの「山口城の絵図・差図と縄張りについて」(『山口県地方史研究』第95号)2006年6月)より許可を得て転載

# 創基200周年を迎える 山口大学

いつの時代も、地元・山口と共に。

文教都市・学都としても知られる山口。

その中核を担う山口大学は、

2015年に創基200周年を迎えます。

全国で3番目に古い国立大学として歴史を重ね、

地域の知・学・教をリードしてきた山口大学は、

いつの時代も、地元・山口に支えられて来ました。

明治維新もこのまちと共に迎え、影響を与え合ったのです。

山口大学200年の歴史と、山口との関わりとは…



## 山口の人材育成の要所

志のルーツは

大内文化

山口大学の歴史は、江戸後期の文化12年(1815)に長州藩士・上田鳳陽が中原(元山口公設市場の場所)に開いた私塾「山口講堂」に始まります。萩の藩校・明倫館に学んだ鳳陽は、当時の山口には武芸の稽古場はあるものの学問所がなかったことを憂い、「自力でも開設したい」と藩に申し出ました。これを受けた藩が資金や建築用材を支給し、さらに山口の豪商・豪農らの協力も得て山口講堂が開校されたのです。

「山口には当時から、教育を支援し、人を育てる気風があったのです」と語るのは、山口大学の創基200周年記念事業を担当する田中和広理事です。山口講堂は弘化2年(1845)に山口講習堂と改称して文武の総合学舎となり、やがて地元諸士の子弟は山口講習堂で学び、優秀な者はさらに明倫館へ進学する…というコースが定着していきました。山口講習堂は藩の人材育成の要所となったのです。明治維新で活躍した井上馨もこの山口のヒーローコースをたどった一人でした。

「まず地元で学び、進学してさらに実力をつけ、全国に打って出る…」という高い志と、それを支える教育熱が、山口には脈々と受け継がれて来たのです。」

## ふるさとやまぐち寄付金の案内

山口市を応援したいという皆さんの思いをカタチにしてみませんか?  
ふるさとやまぐち寄付金

「ふるさとやまぐちを想い、山口市の役に立ちたい」「山口市に関心があり応援したい」とお寄せいただいた寄付金は、魅力と活力にあふれたまちづくりのために大切に活用していきます。皆さんのご寄付が山口市の未来を創ります。ご支援・応援を心よりお待ちしております。

5,000円以上寄付していただいた方には、「ふるさと市の便り」として市の特産品の中からご希望のものを1点お届けします。「ふるさと市の便り」で山口市の魅力を体感し、山口市のPR協力隊になっていただけませんか?

### 平成25年度

### ふるさとやまぐち寄付金のお礼とご報告

平成25年度の寄付金は、26,589,912円(3,474件)になりました。多くのご支援や温かいメッセージをありがとうございました。皆様からいただいた貴重な寄付金は魅力あるまちづくりに向けて大切に活用させていただきます。



※ふるさと納税制度による寄付控除は、毎年受けられます。

山口市企画経営課  
083-934-2746  
e-mail info@sight-yamaguchi.jp

「彩都山口」のwebサイトで詳しくご紹介しています。また、サイト内から寄付を申し込めます。

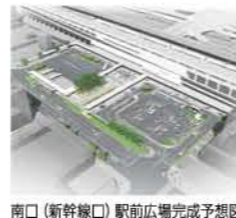
ふるさとやまぐち寄付金 検索

## 新山口駅ターミナルパークの整備について

### 着々と整備が進んでいます!! 山口の玄関 「新山口駅」 ターミナルパーク

「モノ」情報「のターミナル」として出会いと癒しのある交流空間をめざし、整備を進めています。新山口駅ターミナルパーク。平成26年には在来線各ホームに上りエスカレーター、エレベーターを備え、より快適に安心してご利用いただけるようになりました。

平成27年秋には、駅の南北をつなぐ新しい自由通路が開通し、在来線の駅舎もリニューアルする予定です。自由通路は壁面を山口の植生を利用した緑化で彩り、映像による情報発信など、魅力あふれる空間として整備していきます。また、大きく変わる北口駅前広場は、市民ワークショップで機能や運営についてアイデアを出し合うなど、市民に愛される広場づくりに取り組んでいます。こちらは平成29年度に完成する予定です。新しく生まれ変わる新山口駅にご期待ください。



南口(新幹線)駅前広場完成予想図



壁面緑化で彩る幅10メートルの南北自由通路



山口市ターミナルパーク整備部 建設課  
083-973-2440



現在の2.5倍の広さに拡張する北口駅前広場



北口駅前広場完成予想図▶

## 「彩都山口」のウェブサイトが出来ました!!

今、お読みいただいている「彩都山口」の最新号やバックナンバーを閲覧できるほか、山口市が誇る「モノ」「コト」「歴史」などをわかりやすく紹介。また、ふるさと納税の申し込みもweb上から簡単できるようになっています。ぜひ、一度のぞいてみてくださいね!!

彩都山口 検索

そんな風土は明治維新の策源地としての山  
口の在り方にも大きく作用したはずだ。山  
口講習堂は文久3年(1863)に藩庁の山口  
移鎮に伴って山口明倫館となり、以後さまざ  
まな学制改革を経て現在の山口大学に至るま  
だに山口の高等教育の中核として歴史を重ね  
、優れた人材を各界に送り出して来た。山口  
「山口県の官僚輩出率は全国2位」と言われて  
います。山口の人々はいづの時代も高い志を  
持ち、中央で活躍する人材を育てて来たのだと  
思います。地方にありながら京の文化を移入  
し、政治的にも中央で活躍した大内氏の時代か  
らの気風でしょう。」

明治維新以降、高い志を持ち、日本を担って  
いく優れた人材を数多く輩出して来た山口。



広大な敷地に緑があふれる自然豊かな吉田キャンパス。



創基200周年記念事業担当理事の田中和広氏。

「山大学生は地元の人々から、学生さん、と呼ば  
れ、可愛がってもらってました」と、懐かしげです。昭和48年(1973)に現在  
の吉田キャンパスへの統合移転が完了した後  
は、時代の流れと共に学生たちのライフスタイ  
ルも様変わりしましたが、

「地元の人々との交流を大事にしていきたいで  
すね。キャンパスは自然豊かな公園だと思っ  
て、気軽に訪ねていただきたいものです」と、温  
もりのある触れ合いを願っています。

地域の人も気軽に受け入れよう、という山口  
大学の懐の深さが伝わってきますが、それはも  
ちろん国際交流にも及び、常に地域と世界を同  
時に意識していくグローバルな視点が重視さ  
れています。

現在、多数の学生が海外へ留学し、また海  
外からも多くの留学生を迎えています。2015年  
には新学部「国際総合科学部」が開設され、よ  
り多くの外国人留学生を受け入れていく方針  
です。

その精神の源は大内文化にあり、受け継がれ  
てきた志を生かし、育みながら、学問の府と  
しての歴史を重ねて来たのが山口大学だった  
のです。

「人を育て、世に送り出す」  
山口に受け継がれる  
教育熱

「大学の歴史を振り返ると、山口大学はどの  
時代も地元の人々に支えられて来ています。  
まさに、おかげさまで200周年なのです」と  
田中理事は地元への感謝を強調します。



山口大学の歴史を振り返ると、山口大学はどの時代も地元の人々に支えられて来ています。まさに、おかげさまで200周年なのです」と田中理事は地元への感謝を強調します。



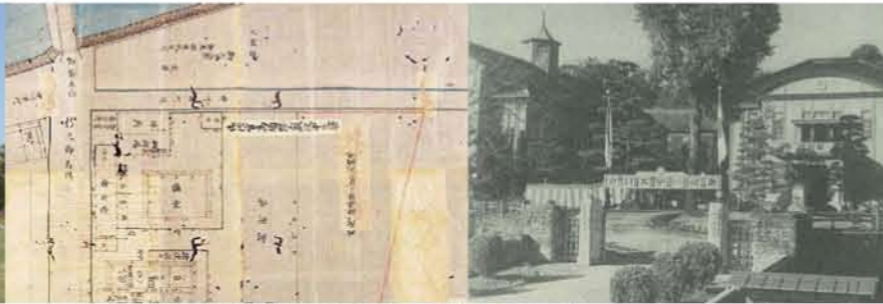
山口大学の起源にあたる「山口講堂」跡(山口市中河原)に建てられた「山口大学創基の地」記念碑。



常盤キャンパス



小串キャンパス



昭和24年(1949)11月5日、開学式当日の山口大学。

の提唱によって創設された防長教育会は、大  
きな功績を残しました。募金活動には多くの  
人々が賛同し、防長教育会は当時の山口県の地  
方税収入にも匹敵する巨額の教育資金を集め  
て、明治19年(1886)から約20年間にわた  
って官立山口高等学校、山口高等学校の経営に  
貢献したのです。

さらに昭和24年(1949)の学制改革によ  
り国立の総合大学として山口大学が誕生した  
際にも、地元の人々の多額の寄付が財源を支え  
ました。新制大学の開学に当たっては県内各  
地から寄付を募りましたが、中でも山口市民に  
は県内最高額(二戸平均490円余り)の負担  
が求められ、市民はこれに応えたのです。

「戦後の厳しい状況の中、国家公務員の初任給  
の比較から現在に換算する  
と一戸当たり約3万円が支  
払われたことに驚かされま  
す。市民の山口大学に対す  
る期待の高さを物語るもの  
です」と語る田中理事は、  
「長州ファイブが英国に渡る  
際、藩は一人当たり一千両の  
資金援助をしたと言われて  
いますが、それと相通する支  
援感覚ですね」と  
と幕末から明治維新にかけ

山口市と山口大学の連携の一例。JR新山  
口駅の改築にともない、北口(表口)駅前広  
場の利用や運営体制の構築にむけたワー  
クショップの産産に大学院理工学研究所の内  
田文雄教授と学生が協力。

平成24年に誕生した山口大学のマ  
スコットキャラクター「ヤマミィ」。  
ストラップやぬいぐるみ、ク  
リアファイルなどのグッズも人気。



2000年の歴史を通して地域の人々に支え  
られてきた山口大学ですが、山口大学もまた、  
地域にさまざまな貢献をしてきました。昭和  
24年(1949)の開学当初に山口県と連携し  
て秋吉台など県内各地で行われた学術調査を  
皮切りに、地域の文化・学問・産業の振興に常  
に目を向け、数々の協力を果たして来たのです。  
「産・官の連携は数え切れないほど。これか  
らは地域創生にも、より積極的に関わってい  
く事になるでしょう」と  
と田中理事。今後も「発見・はぐくみ・かたち  
にする」の広場を理念に掲げる山口大学ら  
しい地域貢献が期待されています。

「受け入れる」  
グローバルな視点で  
地域貢献と国際交流

の山口にも思いを馳せませう。  
山口の人々には「人を育て、世に送り出すこ  
とへの支援を惜しまない」という、いわば人材  
育成のDNAが受け継がれて来たようです。  
そして、その伝統的気風がこの地を明治維新の  
策源地たらしめ、山口大学200年の歴史を頼  
もしく支えて来た...といえるでしょう。

山口大学年表

文化 12年(1815)	・「山口講堂」開設
弘化 2年(1845)	・「山口講習堂」と改称
文久 3年(1863)	・「山口明倫館」と改称
明治 3年(1870)	・「山口中学校」となる
明治 19年(1886)	・「官立山口高等学校」創設
明治 27年(1894)	・「山口高等学校」に改称
明治 38年(1905)	・「山口高等商業学校」に改称
大正 8年(1919)	・「官立山口高等学校」創設
昭和 14年(1939)	・「官立宇部高等工業学校」設置
昭和 18年(1943)	・「山口師範学校」官立となる
昭和 19年(1944)	・「県立山口高等獣医学部」を設置 ・官立宇部高等工業学校を 「官立宇部工業専門学校」と改称 ・「県立医学専門学校」を設立 ・「官立山口青年師範学校」の創設 ・山口高等商業学校を 「山口経済専門学校」と改称
昭和 20年(1945)	・県立山口高等獣医学部を 「山口獣医学部」に改称
昭和 24年(1949)	・山口高等学校、山口師範学校、 山口青年師範学校、山口経済専門学校、 宇部工業専門学校、山口獣医学部を 包括して、「山口大学」を創設 ・「文理」「教育」「経済」「工」「農」の5学部を設置 ・「山口県立医科大学」の開設
昭和 39年(1964)	・山口県立医科大学を国立に移管して「医学部」を設置
昭和 48年(1973)	・平川地区への統合移転完了
昭和 53年(1978)	・文理学部を改組して「人文学部」「理学部」を設置
平成 16年(2004)	・国立大学法人山口大学となる
平成 24年(2012)	・「共同獣医学部」設置
平成 27年(2015)	・「国際総合科学部」設置

ことを目指しています。また、海外へ送り出  
す学生には、課題を持って出かけ、成果を持ち  
帰って還元するという明確な目的意識を求め  
ていきます」  
と、山口大学は独自の具体的方向性を定めた国  
際化を目指しています。

に溯れば、サビエルを擁護し、日明貿易に意欲  
的だった大内氏の時代にたどり着きます。そ  
んな地元の風土を大切に、地域と共存しながら  
山口大学も志を繋ぎ、伝えていくのです。更  
なる発展を目指して」  
2015年、山口大学は創基200周年を迎  
えます。

山口大学企画戦略部  
国際総合科学部設置準備  
083-933-5798  
※詳細は、随時HPで公開。  
「山口大学 国際総合科学部」で  
検索ください。

カリキュラム概念図

1年生	2年生	3年生	4年生
基礎科目 科学技術 リテラシー科目	海外留学 (1年間)	コア 科目	展開 科目
コミュニケーション科目			
課題解決科目			
卒業			

山口大学は、本学部を  
山口大学の改革のエン  
ジンとし、地域の皆様と  
ともに歩みながら、地域  
の、そして世界の発展に  
貢献します。

2015年4月新学部スタート!!  
国際総合科学部  
国際総合科学科  
1学部1学科/定員1学年100名

創基200周年となる2015年、山口大学  
に9番目の学部「国際総合科学部」が誕生しま  
す。国際総合科学部は幅広い教養を身につけ、  
英語力を含む高いコミュニケーション能力とテ  
ザイン思考に基づいた課題解決能力を備えた  
タフなグローバル人材を育成します。英語力は、  
1ヶ月の短期語学研修  
に始まり、2年生秋から  
の1年間の海外留学、そ  
して、帰国後の英語によ  
る講義によって養われ  
ます。4年次には、地  
域での問題点を掘り起  
し、その解決法を模索  
します。

山口大学長 岡 正朗

文系・理系、国の枠を越えた教育により、  
時代の求める問題解決能力を持った  
人材を育成します。



漢数字「一五〇」を用い、明治維新の策源地は山口市であることを広く宣言する気持ちをこめて落款印風に。赤い円は昇る太陽、そして明治維新という日本の夜明け、始まりを意味している。

「山口の歴史を未来へ伝えていくためのイベントを支えています。」  
「山口の歴史を未来へ伝えていくためのイベントを支えています。」

「山口の歴史を未来へ伝えていくためのイベントを支えています。」

### 幕末維新小学生ウルトラクイズを開催

そんな願いを託したビッグイベントとして、山口市内の全小学校の5、6年生を対象に維新百年記念公園で開催されるのが「幕末維新小学生ウルトラクイズ」です。明治維新をテーマにした大クイズ大会。子ども3人1組で参加して次々とクイズに挑戦し、勝ち抜いた約10組はステージに上がって最終クイズに臨む...という楽しい企画です。数百人の小学生の参加が見込まれ、初開催を前に現在、委員会ではクイズに挑戦する小学生向けの明治維新テキストを制作し、配布を終えたところ。明治維新関係の史実をわかりやすく解説して掲載しようと、心を砕きました。

「この誇るべき山口の特質を、多くの人々に知っていただくと共に、次世代を担う子どもたちにもしっかりと伝え、受け継いでいってほしいのです。」

# 維新を支えた山口の“文化の力”を未来へつなぐ

2018年の「明治維新150年」を前に、山口市が明治維新の策源地だったことが改めて注目され、発信にも力が注がれています。魅力的な企画で市民の機運をリードする明治維新150年記念事業実行委員会の取り組みについて紹介しましょう。



「夢を追う高杉晋作～脱出ルートを通る」ツアー(10月25日)／藩内で俗論派勢力が台頭し危険を感じた高杉晋作が150年前に萩を脱出したルートを通るウォーキングイベントを実施。萩松跡をスタート地点に一升谷の石畳、天花坂口などを巡った。萩往還の語り部から各所の歴史的背景や自然等の説明を受け、参加者全員が楽しみながら歩きました。



周布政之助没後150年慰霊祭(9月26日)／150年前、藩の危機的状況を抱いた責任をとって自害した周布政之助の慰霊祭を、周布の墓所の隣地、周布公園に建てられた顕彰碑の前で開催。周布家当主や大河ドラマで周布を演じる石丸幹二氏をはじめ120人が参列した。



維新寺子屋「講談の夕べ」(9月25日)／150年前に井上馨が袖解橋付近で受けた重傷を負った出来事を顕彰する企画として上方講談師・旭堂南左衛門氏を招いて開催。「侍の洋行～若き日の伊藤博文と井上馨」、「袖解橋の御難～井上馨」の2つの演目と、合間に実行委員会による寸劇を行った。



山口お宝展(2月28日～4月5日)／明治維新から数えて150年という記念すべき2018年に向け、維新の策源地ゆかりの建造物やお宝を一挙公開。明治維新の原動力の源となったパワースポット「藩庁門」でオープニングセレモニーを開催した。

### 大内文化から維新へ続く心

2018年の明治維新150年を前に、維新策源地としての活気が日々高まりをみせている山口市。その機運を束ね、より大きなパワーにして地元活性化に力を注いでいるのが山口市商工会議所明治維新150年記念事業実行委員会です。  
「山口は維新の志士たちが倒幕の策を練った作戦基地であり、それを支えたのが豪農や豪商といった地元の町衆でした。山口は明治維新でそんな重要な役割を果たした地である」とをより多くの人々に知っていただきたいので「と委員長河野康志さん。委員会は山口市商工会議所のメンバーを中心に2013年8月に発足しました。」



主催事業として、2014年春の明治維新をテーマとした「山口お宝展」開催を皮切りに、9月25日には地元出身の志士井上馨受難の日(※注1)にちなんで「維新寺子屋・講談の夕べ」、周布政之助が萩から山口へ脱出した10月25日にはそのルート「萩往還のガイド付ウォーキング」と、山口ゆかりの維新関連イベントを次々に開催しています。

山口が誇る貴重なものに市内各地で触れられる期間限定の「山口お宝展」は、2015年で10回目となりますが、2013年までは大内文化(※注2)をテーマに開催されてきました。「維新をテーマにしたのは2014年が初めてですが、明治維新策源地・山口の根底には大内文化を受け継いできた伝統・文化の土壌があります。歴史はつながっているのです。」と河野さん。地元で受け継がれてきた文化を大切にしている心こそが、山口を維新の策源地たらしめた...という

援しようという姿勢は、まさに維新当時の町衆の心意気に通ずるものでしょう。

明治維新策源地の気概に支えられた「幕末維新小学生ウルトラクイズ」は、2015年3月7日(土)に初開催、以後、明治維新150年の2018年まで継続開催されていく予定です。

### 文化のまち・山口の志

さらに2015年は井上馨の没後100年に当たることから、出身地湯田でのイベントを計画。湯田温泉の新施設(P11参照)をコラボさせた企画も期待されています。翌2016年には薩長同盟にちなんだイベントを...と、今後のプランについてもさまざまな協議を進めています。  
「文化を大切に思う心が地元の力となり、未来を拓いていくことは史実からも明らかです。毛利氏の萩移封に伴って瑠璃光寺五重塔が解体の危機に見舞われた際、町民の嘆願によって解体が免れたこと。さらに、江戸時代に町衆の間で連歌が盛んに作られていたことなども山口の人々がいつの世も文化と共にあったことを物語っています。その文化・地域の特質を内外へ伝え、次世代に伝えていくのが我々の使命と考えています」と、繰り返し熱く語る河野さん。維新150年を文化のまち・山口の一つの節目ととらえ、意欲的な取り組みが続いていきます。

※注1 井上馨受難の日(元治元年(1864)9月25日) 井上馨は袖解橋(中園町付近)で反対勢力に襲われ、重傷を負った。(P11 P13参照)

※注2 大内文化/室町時代に守護大名大内弘世が京の都に遷して山口の街づくりを行ったことを基盤に育まれた独自の文化。都から権貴・文人公家などを受け入れて成り立ち、華やかな文化が栄え、山口は西の京とも呼ばれた。

●河野康志(かんの やすし) 山口市商工会議所明治維新150年記念事業実行委員長、山口市菜香亭館長、(株)マルニ代表取締役社長

# われらの手で未来を拓く

維新の魂で“山口らしさ”を発信！  
～地域ブランド「Re:維新」～

時代を切り拓いていく志を現在に受け継ぎ、未来に伝えていくのが明治維新の策源地、山口の心意気。そんな思いを反映させた取り組みの一つが、山口商工会議所が立ち上げた地域ブランド「Re:維新」です。



開設当初は17社18品目でスタート。県産大豆で作った厚みたっぷりの油揚げや県産米使用の純米吟醸酒などの食品・酒、山口七太ちょうちんまつりをモチーフにした風呂敷や騎兵隊の旗印をあしらった維新ジーンズなどの衣料、ガラスの箸置きなどの工芸品、さらには明治の雰囲気を生かした結婚式・披露宴プランといったサービスまで、バラエティ豊かなラインアップです。いずれも山口産の素材や維新の精神を現代風にアレンジし、オリジナルな魅力を持たえています。

「3原則を満たしていれば、他に制約はなく、各社が自由に企画すればいい。ポイントにはわくわく感。まず作り手・売り手がわくわくしなくては、買手の興味は誘えません」と、高揚感を重視しています。

シールに描かれたロゴマークは、維新の志士「獅子」という連想から、獅子座をアレンジした

「再維新」は復興(ルネサンス)！  
地元のために奮起

「Re:維新」ブランドは、明治維新の精神を再び呼び起こし、山口にゆかりのある特徴的、



日本、そして山口が「奮闘していた幕末維新の時代」  
国内ばかりでなく、世界を見据えて国づくりに奔走した  
維新の志士達の気概を呼び起こし、再スタートする。  
私たちは、「Re:維新(再維新)」の旗印のもと、  
山口にゆかりのある独自性の高い商品・サービスを通して  
全国に元気を発信してまいります。

「ただの「再び」ではなく、再び栄える「復興」ルネサンス」のReです。維新のハブ・スポーツは山口である、という信念に基づいて、そもそも弊社(匠山泊)が考案したブランドでしたが、多くの仲間たちと想いを共有し、より強



【Re:維新のお問い合わせ先】  
山口商工会議所  
TEL 083-925-2300  
www.yamaco.or.jp

と行動力を確認したといえます。2012年、湯田温泉にある高田公園の名がメンバーの尽力により本来の井上公園に改称されたのを見届けた上で、共有化に踏み切りました。維新の歴史を尊重しながら意欲的に動くメンバーの姿勢を目的の当たりし、安心してブランドを譲り渡した...というわけです。

「私利私欲ではなく、地元・山口のために動く、という志あるメンバーが作り、発信していくブランドでなくてはなりません」と、岡部さんは連帯感の中で新たに生まれた活気を喜んでいきます。

山口らしさを、新たに  
高揚感と共に発信

山口商工会議所が設けた「Re:維新」の認定基準は「明治維新を成し遂げた「山口の魂」を持つ」「マンネリを打破し、国内

デザイン。岡部さんは「英語ではリーションと呼んでほしい」と、「Re:維新」ブランドの海外進出も視野に入れています。

山口の人の力が生み出し、  
進化し続けるブランド

立ち上げから3年で、萩焼と大内塗りを組み合わせた食器やビール、福祉機器など新たな企業の参加と品目の追加もあり、現在の認定商品は20社26品目を数えます。

「新商品の審査を3カ月に一度、認定商品の総括も年1回行っています。まず始めることに価値があり、そして、常に進化していくことが大切。維新150年の2018年が一つの節目ですが、決してゴールではありません。パルセロナのサクラファミリアのように進化を続け、いつの時代も未来を切り拓いていく、山口の魂の象徴にしていきたい」と、岡部さんは



熱く語ります。

2013年1月には、山口県の地域ブランドの代表格として新聞報道され、毎年秋季には山口市内のデパートで展示即売会を開催。2014年は夏みかん果汁を使った地サイダーなどの新登録品をはじめ各商品が話題を呼びました。認知度は確実に高まりを見せ、今後は県外での物産展などへも出展していく見込みです。「Re:維新」はまさに松陰の説いた「草莽崛起(そうもうっき)」(※)の体現。商工会議所メンバーが山口のために立ち上がって生み出し、育てていくブランドなのです。

山口発「Re:維新」ブランドが今後、どんな維新をもたらしていくのか、期待されます。



(※)草莽崛起/明治維新の多くの志士たちを教育した吉田松陰の思想の一つ。一般大衆が立ち上がり、という意図。

●岡部泰民(おかべ やすたみ) / 山口商工会議所商業部 部長、Re:維新ブランド推進委員長、匠山泊代表

## 「Re:維新」認定商品

- ・県産大豆の油揚げ湯田あげ (とうふ工房大豆畑)
- ・野菜のおもちホンノキモチ (有)山和製麺)
- ・「Re:維新」結婚式披露宴プラン (ウエディングギャラリーカリン山口)
- ・MIHORIの唐揚げの素 (株)MIHORI)
- ・キムチ維新さわやかキムチ (有)日本果実工業株)
- ・県産果実のお茶葉(るる) (金光酒造株)
- ・純米吟醸酒山行水行 (有)れんげ)
- ・惣菜の豚珍巻4種類 (株)藤木)
- ・山口七太ちょうちん祭り風呂敷 (特別栽培米維新の一粒) (瑞穂製穀株)
- ・山口ぶどう米 (小野商店の特産品セット) (有)小野商店)
- ・山口のはちみつ (有)藤井食品店)
- ・長州地サイダー (日本果実工業株)
- ・萩の夏みかんマレード (有)中村民芸社)
- ・(キリンビールマーケティング(株)山口支社)
- ・魔法の食パンM-X粒 (株)いちやなぎ)
- ・米粉パームクレーン酒ケーキ (有)中村民芸社)
- ・「Re:維新」ジーンズ (合名会社 匠山泊)
- ・県産米と六子の維新巻き (有)中村民芸社)
- ・「維新弁当」 (有)中村民芸社)
- ・山口陶器器 (有)中村民芸社)
- ・ガラスの箸置き花袋 (サンドライブ工房のり、あーと)
- ・大内茶園の大内茶籠 (大内茶園の萩夏みかん紅茶、山口紅茶) (株)大内茶園)
- ・「高齢者向け非電動式階段用可動手すり」 (下松海陸産業)

大村益次郎の墓所(国指定史跡)は、鑄銭司の長沢池のほとりに建つ大村神社の裏山にあります。参拝者には分かりにくい場所に位置するため、鑄銭司自治会(鑄銭司まちづくり協議会)では地図を記した案内板の設置を計画。郷土愛を育む意図も込めて、鑄銭司小学校の児童に案内板の原案を描いてもらおうと考え、同校に相談しました。

鑄銭司小学校ではこの提案を平成26年の夏休みの活動プログラムに位置づけ、有志を募ったところ、岡本舞路君、村田拓真君、杉山隆之介君、小野くるみさん、光永さくらさんの6年生5人が手を挙げ、原案を制作することになりました。5人は7月上旬から鑄銭司郷土館や大村神社を訪ねて益次郎の生涯や人柄、功績など

を調べ、墓所までの散策路も取材。案内板のポイントとなる鳥居や神社、墓所、風景などがどの部分を描くのか担当を決めて制作をスタートさせました。

案内板は、縦横1m以上の大きな用紙に各自が担当部分を描き、道の部分に5人それぞれが描いた益次郎のキャラクターを配置。益次郎自身が道案内しているように表現されています。絵の横には「新しい日本の礎をつくった大村益次郎」と題した4項目の紹介文も添えました。

4日間集中して案内板を仕上げた5人は苦心した点を振り返りながらも、「益次郎は」すぐく勉強する人だったんだと感心した。「益次郎に



中本隆徳校長(右上写真後列中央)の部屋で案内板原案を広げ、「ここは僕が担当しました」と笑顔で説明する児童たち。

案内板の原案制作の後は、益次郎について6年生全員がそれぞれテーマを決め、さらに詳しく調査・研究。成果をまとめました!



とにかく勉強好きの本当にすごい人だった!



業績が多いのに、知られていないのが不思議



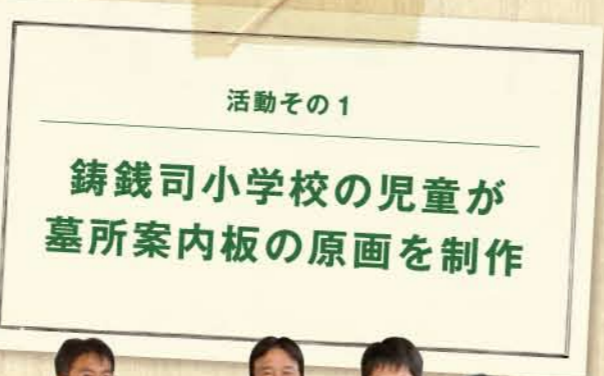
行った事を知り、天才なんだと感じました



宇和島に行ったときの事を本で調べました



へボンから英語も習っていたんですよ



案内板の建物や益次郎のイラストは5人の児童がそれぞれに描き、少しずつタッチが違う点も楽しい。益次郎に導かれて訪ね歩く気分が味わえる。

ついて、もっとくわしく知りたくなった「歴史に興味があわてきた」と、郷土の先人への興味を深め、自分で調べて知識を深めていく手応えも実感したようです。その後、6年生全員が「益次郎の勉強」「大村益次郎と宇和島」など各自1テーマを選んで行った調査研究にも意欲的に取り組みました。

5人が描いた原案をもとに製作された案内板は大村神社の石段の側に設置され、11月3日には児童の代表2名も参加して除幕式が行われました。「温もりを感じる案内板」鑄銭司の見どころの紹介にもなっている」と、地域の人々にも喜ばれています。

# 山口市鑄銭司出身の偉人 大村益次郎の功績を 学び、広め、伝え継ぐ



山口市歴史民俗資料館

近代日本の軍隊の基礎を築き、明治維新の先覚者として知られる大村益次郎は、山口市南部の鑄銭司の出身。益次郎の没後150年を前に、地元では「郷土の偉人の功績を称え、後世に伝えていこう」という機運が高まり、顕彰活動に力が注がれています。うち、二つの活動を紹介しましょう。

「まず知っておきたい人物像」  
鑄銭司生まれの「大村益次郎」は、こんなにスゴイ人!!  
日本近代軍制の創立者

家業の医師から転身、兵学者として頭角を現す

大村益次郎は文政8年(1825)に鑄銭司村の医師・村田孝益の長男として生まれました。父は医業のかたわら農業も行っていました。益次郎は大坂や長崎で医学、蘭学を学び、帰郷して四辻に開業して村田良庵と名乗り、近隣の人々の診療に当たりました。嘉永6年(1853)に黒船が来航して蘭学者の知識が求められる時代になると、益次郎は宇和島藩の招きに応じて医業を辞め、四国に移住。宇和島の藩士たちに西洋兵書の翻訳や蘭学を教えました。藩命により村田蔵六と改名し、長崎で軍艦製造の研究も行いました。

江戸で名を上げ、長州藩に戻って活躍

その後、江戸に出て私塾を開き、蘭学・医学・兵学を教授して評判を呼びます。次第に幕府に認められるようになり、講武所教授に就任し、最新の兵学書の翻訳や講義を行ってさらに名声を上げました。



長沢池のほとりにある大村神社

やがて長州藩の江戸屋敷で開催された蘭書会読会で桂小五郎(木戸孝允)らと出会ったこと



大村益次郎の墓所

をきっかけに、江戸在住の長州藩士となりました。江戸では英語や数学も学び、井上馨、伊藤博文ら長州ファイブの英国渡航に際しては留学費用を融通しました。文久3年(1863)、萩から山口への藩庁移鎮に伴って帰郷した後は、山口の白石にある普門寺で兵学を教授し、さらに山口明倫館教授となって兵制の改革に尽力しました。この頃、藩命により大村益次郎と改名。大村は集落の名前からとったものでした。

慶応2年(1866)の第二次長州征伐では藩の軍務を主宰して兵備を一新し、自らも出陣。画期的な指揮と作戦をみせ活躍しました。

明治維新後は軍制の近代化に尽力

明治維新後には、戊辰戦争でずば抜けた軍事的手腕を発揮し、その功績を認められて永世禄1500石を賜り、新政府の幹部に就きました。兵部大輔となつて藩兵による軍を解散し、近代的軍備を採用した兵制改革を進めたのです。しかし、その変革によって一部士族の不满をかい、明治2年(1869)9月、京都で刺客に襲われ、11月に没しました。死後、天皇より従三位を贈られ、故郷・鑄銭司の小山の中腹に神葬されました。



児童たちが描いた原案をもとに大村神社の石段脇に設置された大村益次郎墓所案内板。温かく、わかりやすい案内を読むと、墓所まで足を延ばしたくなる。



山口市鑄銭司1422  
083-986-2368  
開館時間 / 9時~17時(入館は16時30分まで)  
入館料 / 一般 100円、小・中学生 50円  
休館日 / 月曜(祝日の場合は翌日)・年末年始

鑄銭司郷土館  
鑄銭司の歴史の「大トビックス」貨幣鑄造と「大村益次郎」について、それぞれ展示室を設けて紹介。益次郎の展示室では、その生涯の主な出来事を14枚の切り絵により紹介している。

益次郎の基本情報はここでゲット!



彩都山口 URL <http://sight-yamaguchi.jp/> 山口市菜香亭

### このハガキで「彩都山口」プレゼントクイズにご応募いただけます。

郵便番号、住所、氏名、年齢、性別、電話番号、右のクイズの答え、アンケートの回答をご記入の上、お送りください。正解者の中から抽選で10名様に山口市の特産品詰合せをプレゼントします。当選者の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。

#### クイズの答え

#### 「彩都山口」の感想をお寄せください。

皆様のご意見を今後の誌面づくりの参考にさせていただきます。

##### Q1 「彩都山口」をどこで入手されましたか?

1. 郵送で
2. 市役所や公民館等の公共施設で
3. 駅や観光案内所で
4. 道の駅や特産品販売所などで
5. ホテルや旅館等の宿泊施設で
6. 美容院や飲食店などのお店で
7. その他[具体的に:]

##### Q2 どの記事が面白かったですか?

1. 特集1 明治維新の策源地、山口
2. 特集2 創基200周年を迎える山口大学
3. 特集3 維新の志を伝え継ぐ「地域人力」
4. 大河ドラマ「花燃ゆ」情報
5. その他 [具体的に:]

##### Q3 山口市のどんなところに興味がありますか?

1. 歴史
2. 自然
3. 芸術・文化
4. 温泉
5. グルメ
6. その他[具体的に:]

##### Q4 山口市の中でどこか訪ねてみたい所がありますか?

訪ねてみたい理由があれば、それも教えてください。

場所[ ]  
理由[ ]

##### Q5 今後、どんなテーマの記事を読みたいですか?

### プレゼントクイズ

クイズ正解者の中から抽選で10名様に、山口市の特産品詰合せをプレゼントします!! ふるってご応募ください。

Q 特集1でご紹介の「明治維新の策源地、山口」が明治維新150年を迎えるのはいつ?

- ①2015年 ②2018年 ③2021年

#### ●応募方法

左の応募ハガキを切り離し、必要事項をご記入の上、お送りください。

#### ●応募締切

第1次/平成27年9月30日(水)  
第2次/平成28年1月31日(日)  
※当日消印有効

[個人情報利用の目的]  
ご応募いただいた際の個人情報は、誌面づくりの参考とプレゼント賞品の発送のみに使用致します。



**y tube** 山口のニッチな情報  
ココにあります!!

「y tube」は、山口市の地域映像・写真投稿共有サイトです。会員(無料)になれば、スマートフォンやパソコンから簡単に映像や写真が投稿できます。

- 運動会やクラブ活動
- サークルの作品の発表
- 地域のイベントの紹介
- 山口の特産品の紹介
- お店情報

会員登録の方法など、詳しくは、コチラ!  
<http://www.ytube.jp> をご覧ください!!

等々、山口のニッチな情報を発信&検索してみませんか

※「y tube」は、山口市と山口ケーブルビジョンが運営しています。



#### 編集後記

明治維新150年まであと3年。そのカウントダウンが始まり、また今年の大河ドラマのヒロインが松陰先生の妹の文さんとなって、山口は今、ちょっと維新ブームです。幕末、数多くの維新の志士たちを輩出した長州藩。そのゆかりの地をめぐる旅をお考えならば、萩や下関はもちろんのこと、ここ山口市にも訪ねていただきたいスポットがいろいろあるんですよ、という気持ちをごめて今回の「彩都山口」は、まるごと一冊明治維新特集にしてみました。いかがでしたか? 「策源地」って、多分一般にはあまりなじみのない言葉ですよ。特集1では、その言葉の意味を含め「策源地」山口のあれこれをご紹介。「明治維新と山口市…なんだかピンとこないな…」 「策源地って何?」。そんなあなたがこの街へ「来て」「見て」「ふれて」みれば、新たな山口市の一面に目からウロコかも?! ご来訪を心よりお待ちしております。

発行/ 2015年1月  
山口市総合政策部企画経営課  
〒753-8650 山口市亀山町 2-1  
tel.083-934-2746  
<http://www.city.yamaguchi.lg.jp/>

#### Staff

制作統括 株式会社コア Writer 村上郁子  
Editor in Chief 矢原玲子 Illustration 山寺わかな  
Art Director 松本恵子 Photograph 蔵澄秀昭

#### 取材協力

山口大学 山口商工会議所  
山口市菜香亭 山口市立鑄銭司小学校  
山口の街並みを着物で歩こう会 山口市の皆さま



中野澄男さん

平成23年に有志8名で「郷土の偉人大村益次郎の紙芝居を作ろう会」を結成し、18枚構成の紙芝居と、上演用の木製舞台

地元の人々による大村益次郎顕彰活動の一つに、紙芝居の製作・上演があります。「大村益次郎はこの鑄銭司の出身で、明治維新の先覚者とされる偉大な人物なのに、あまり知られていない」と残念に思った地元の有志らが「益次郎の功績を多くの人に知ってもらい、後世にも伝えていきたい」と考え、思いついたのが、益次郎の生涯や活躍を紙芝居にして、その功績を語り広め、次世代にも伝えていく…という企画でした。



上演用の木製舞台(木製枠)も会員の手づくり

の製作とその上演準備を進めました。約20分間にわたるナレーションの練習も重ね、翌24年4月、大村神社の春季例祭で初上演し、奉納。

(木製枠)を半年かけて手づくりしました。70代が中心のメンバーは、それぞれ脚本・作画・歴史考証などの役割を担い、半年間に4〜5回集まって内容を検討。脚本には地元在住の郷土史家・内田伸さん(山口市歴史民俗資料館名誉館長)の監修協力を得て、史実に沿った紙芝居

「長年地元で暮らしてきて、今やっと益次郎の功績を知ったところ」「3年後には没後150年事業も計画されているから、より広く知ってもらおう絶好のチャンス」と今後の展開にも意欲的。観客の反応をもとに修正を加えたり、ナレーションは大人用・子ども用の2種類を用意するなど労を惜しまず活動し、地域でも「紙芝居の内容はもちろん、皆さんの姿勢にも感動しています」と評判です。「地元の偉人の功績を埋もれさせではならぬ」と野村勇さんらの声も弾みま。



野村勇さん

以後、近隣の公民館や高齢者施設、祭りなどを中心に年に5〜6回の上演を重ね、現在までの上演回数は累計27回を数えます。「内容に間違いがあつてははいけませんから、益次郎について改めて調べ、新たに知ったこともありました」と、代表の中野澄男さん。「軍制創始者の面ばかりが目立っているけれど、情の深い人だったらしい」「父親に度々手紙を書いたり、戦いに敗れた敵将を顕彰するなど、人間味あふれる逸話も多い」と、作画担当の岡本清さん、鑄銭司まちづくり研究会分科会リーダーの野村勇さんらの声も弾みま。



岡本清さん



鑄銭司まちづくり協議会では、有志を募って、没後150年に向けて地域の史跡を紹介する「大村益次郎史跡めぐりコース」の案内MAPも作成中。

「二次世代に正確に伝えていくのが我々の責任」と、人生のベテランならではの使命感を秘めた活動が続いています。

一枚ずつ手づくりの紙芝居。顔を似せる苦心もあったとか。

# 山口お宝展

～明治維新150年記念事業～

2015年2月28日(土)～4月5日(日)

お問合せ先/山口商工会議所 ☎083-925-2300



## ■明治維新お宝展示■

- 「絹本着色吉田松陰像(自賛)」〈山口県文書館〉  
2015年2月28日(土)～3月29日(日)  
※3月10日(火)～15日(日)は実物を展示※併せて吉田松陰に関する資料も展示
- Narrative of the Expedition of an American Squadron to the China Seas and Japan  
(ペリー艦隊日本遠征記) 〈山口県立山口図書館〉  
2015年2月28日(土)～3月29日(日)
- 企画展「没後100年 間多復活」〈山口市菜香亭〉  
2015年2月5日(木)～4月5日(日)
- 山田顕義宛楯取素彦書翰〈初公開〉  
『長防臣民合議書』(木活字本・整版本)〈山口大学埋蔵文化財資料館〉  
2015年2月28日(土)～4月24日(金)
- 久坂玄瑞常用湯呑&レプリカ展示〈大路ロビー〉  
2015年2月21日(土)～4月5日(日)

## ■関連イベント■

### ●維新策源地ウォーク

お宝展期間中の土・日・祝日に開催/国宝瑠璃光寺五重塔集合・解散(集合13:00)、行程約5km・所要約3時間  
※最少催行人数2名。要予約。  
予約・お問合せ先/(一財)山口観光コンベンション協会 ☎083-933-0088



# 山口七夕ちょうちんまつり

2015年8月6日(木)・7日(金) 予定

山口市中心商店街・山口駅通り・パークロードほか

お問合せ先/山口市ふるさとまつり実行委員会 ☎083-932-3456



# NHK大河ドラマ「花燃ゆ」

## 企画展

2015年3月22日(日)～12月下旬

湯田温泉観光回遊拠点施設「狐の足あと」

8:00～22:00/年中無休/入館無料

POST CARD



7 5 3 8 7 9 0



差出有効期間  
平成28年  
3月31日  
切手不要

山口市亀山町2-1

総合政策部 企画経営課

「彩都山口vol.7」プレゼント係 行



必要事項をご記入ください

ふりがな		年齢	歳
お名前 (必須)		性別	男・女
ご住所 (必須)	〒 -		
TEL (必須)	( ) -	FAX	( ) -
ご職業			

※応募締切/●第1次/平成27年9月30日(水) 当日消印有効  
●第2次/平成28年1月31日(日)